

令和7年度地域担当職員活動報告会 開催結果

概 要

制度開始から約1年半が経過し、地域担当職員として各区の町会長会議等に出席し活動するなかで、解決に至った事例や困難事案、自治会運営の実態等について市長へ報告を行った。

- ◆期 日 令和7年11月10日（月）
午後3時30分～午後5時00分
- ◆会 場 美喜仁桐生文化会館 国際会議室
- ◆参加者 桐生市長
地域担当職員（23名）
桐生市区長連絡協議会役員（6名）



1 開 会

2 市長挨拶

3 地域担当職員による各区における活動報告

1 区	<ul style="list-style-type: none">・町会長から自治会の活動について住民へ周知できるものが欲しいとの相談を受け、地域づくり課で作成したチラシを提供し、実際に町会内で回覧された。・住民の高齢化や役員のなり手不足等が長期的な課題となっている。・同じ区内でも町会によって考え方の違いがあることに気付いた。・実際に地域の行事に参加したことで、住民の参加状況等について把握することができた。
2 区	<ul style="list-style-type: none">・同じ区内でも町会により町会費等の徴収方法が異なっており、役員の引継ぎの際に混乱が見られ、地区差を踏まえた対応が必要である難しさを感じた。・町会ごとに状況が異なることを踏まえ、情報共有の際は各地域の特性を理解したうえで対応する重要性を実感した。
3 区	<ul style="list-style-type: none">・新庁舎建設工事に関する住民説明会について、周知方法を変更して欲しいとの要望があり、担当課と調整を行った。・地域の行事が多くある一方で、区や町会役員の活動は多岐にわたり、業務量が多く苦勞している面もあることに気付いた。・3区において本来の担当業務の調査を行った際、町会役員と日頃からコミュニケーションをとっていたことで、調整をスムーズに行うことができた。
4 区	<ul style="list-style-type: none">・防災イベントを実施するにあたり、他地区の状況を知りたいとの意見があったため、他地区の地域担当職員や防災担当者から情報を集め、地域へ情報提供を行った。・役員は高齢化が進んでいるとともに男性が多い傾向があり、女性や若者も自治会運営に参画出来ないかを感じている。・地域には様々な立場の人がおり、それぞれの意見を聞きながらより良い方向に導くためには地域担当職員だけでなく町会役員にもファシリテーション力の向上が必要と感じた。・区長の役割が多く、区役員内での役割の分散化が出来ると負担軽減に繋がると考える。
5 区	<ul style="list-style-type: none">・カラスの被害対策について相談を受けた際、カラス対策に力を入れている他自治体の例を調べ、情報提供を行った。・区内のゴミ屋敷化した家について、本人は支援を必要としていない場面だと、市が介入できる範囲も限られ、積極的に支援することが難しいと実感した。・高齢化が進むとともに、60歳を過ぎても働き続けている人も増えていることで、役員のなり手不足に繋がっていると感じた。・幅広い世代が一緒になって地域活動をすることで地域の活性化に繋がるものの、世代によって価値観の違いがあることから、すり合わせが難しいと感じた。

6 区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 青年の家の敷地内に、以前から町会が管理している土地があったが、町会での維持管理が難しくなったことで、市へ返還したいとの相談があり、担当課に事務手続きの方法等を確認しその内容を町会へ伝達などサポートを行い、土地を返還することができた。 ・ 自治会役員や民生委員は高齢化が進んでおり、後継者探しに苦慮されている。 ・ 会議の進行において調整を行うという点が本来の担当業務と共通しており、役立っている。
7 区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区の既存行事に活用できそうな市補助金があったため、提案したところ実際に補助金が活用され、同時期に区費も減額していたこともあり、財源の確保に貢献することができた。 ・ 自治会役員の仕事は様々だが、なかでも市等から依頼される委員の選出依頼や会議等への出席依頼などの対応が複雑であり、負担が大きいと感じている。 ・ 区長定例会のなかで区長が市から説明を受けても、複数ある必要な情報を正確に各町会長へ伝達することが困難な場面もあり、市側の依頼業務の軽減など検討が必要と感じている。 ・ 活動するなかで、地域住民との関わりの場や自治会活動への参画の機会により、市職員として「住民のために」といった基礎意識の向上が図られた。
8 区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区で取組んでいる「えがおのサロン」では、運営は町会長を中心に行っているが、利用者である地域住民も自主的に協力している。他の活動においても、地域の自主性において成り立っている。 ・ 区の会議等では、活発な意見交換を行いつつ短時間で方針が決定されるなど運営体制が整っており、地域担当職員と自治会の間でもよりよいパートナー関係を築けていると感じている。 ・ 会議などで定期的に顔を合わせていることで、コミュニケーションの地盤ができ、本来の担当業務でも役立っている。
9 区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少や少子高齢化により、町会費等の財源も減少していることで、今まで行っていた公園の維持管理や行事等の地域活動の運営費を捻出することが難しくなっている状況を把握することができた。 ・ 人口減少や少子高齢化が課題となっているが、地域のお祭りを通し、若い世代が地域を盛り上げる取組みもなされている。 ・ 地域に携るなかで、地域単独での解決が難しい事案もあるため、地域担当職員として地域と行政の調整を引き続き行い、サポートしていきたいと考えている。
10 区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町会長から外国人住民にごみカレンダーを配布したいが言語がわからないとの相談を受け、担当課から数種類の言語のごみカレンダーを入手し、町会長へ提供するとともに、スマートフォンの翻訳アプリの紹介も行った。 ・ 毎月の会議で防災について話題に挙がり、災害時の要支援者への対策等もしっかり行われており、非常に防災意識が高い地域であると感じている。 ・ 毎月会議に参加していることで、活動開始当初と比較し市と地域との距離が近くなったと感じている。
11 区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区長以下町会長が担う役割が多いと感じた。 ・ 若い世代に自治会運営に参画してもらうために会議開催の時間帯等を変更しても、実務部分で平日に時間を割かなくてはならない場面が多く、現状のままでは若い世代が役割を担うことは難しいと感じた。 ・ 区で行われている独自の行事や活動が多くあり、それらがどのようなプロセスで行われているのか知ることができた。
12 区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化により、役員のなり手不足や民生委員等の選出について苦慮していることが分かった。 ・ 現役員のなかには、仕事をされている人もいるが、体協や地域のお祭り等の行事への参加を積極的に呼びかけており、自治会活動への熱意を感じている。 ・ 区の会議が行われる際は、会議の前後の時間を利用し、町会ごとに話し合いを行うなど役員間での情報共有や意見交換を熱心にされている。
12 区	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の会議で顔を合わせていることで、ちょっとした相談や依頼がしやすい関係づくりに繋がっていると感じている。 ・ 自治会の業務は多岐にわたり、負担が大きいと感じており、役員の高齢化が進むなかで、地域担当職員としてなるべく負担の少ない自治会運営に繋げるサポートを行っていきたいと考えている。

13 区	<ul style="list-style-type: none"> ・町会の行事に対する区の助成金について、運用の見直しに伴い要綱を作成する際、地域担当職員としてサポートを行った。 ・活動を通じて市からの依頼が多いことに気付き、本来の担当業務において自治会へ依頼する際は、依頼する必要性や負担の少ない方法等をあらかじめ検討するようになった。
14 区	<ul style="list-style-type: none"> ・14 区は 22 地区の中でも比較的に人口が少ない地域であるが、現役員は自治会活動への意欲や能力が高い人が多いと感じている。 ・会議では意見交換が活発に行われ、方針決定もスムーズに行われている。
15 区	<ul style="list-style-type: none"> ・なり手不足は、高齢化だけでなく定年延長等も要因ではないかと感じている。 ・なり手不足の解消や若い世代の参画を促すために、役員手当の見直しや一定年数で役員の交代を行うなどの工夫が行われていることが分かった。 ・地域担当職員となったことで、他部局の職員との関りが増え、本来の担当業務においても相談等がしやすくなったと感じている。
16 区	<ul style="list-style-type: none"> ・隣組長が高齢の場合、回覧板や毎戸配布等の業務は負担が大きく、過疎化が進んだ地域では深刻な問題と認識した。 ・役員について、仕事をしている現役世代にはなかなか引き受けてもらえず、後任探しに苦労されていると感じた。 ・地域に関わるなかで、本来の担当業務においても地域からの要望がより理解できるようになったと感じている。
17 区	<ul style="list-style-type: none"> ・区内において不法投棄が起きた際、関係機関との調整を行うなど解決のサポートを行うなかで、困っている市民に対しどのように関わるべきなのか気付くきっかけとなった。 ・市が依頼する業務の他にも、住民や学校等から依頼される業務も多くあることを実感した。 ・活動をするなかで、役員の方々が地域のことを真剣に考えて活動している姿を目の当たりにし、自治会活動についてメリット・デメリットを知ることよりも、活動内容を知ることによって自治会の必要性を実感でき、若い世代の参画に繋がると感じたため、今後そういった取り組みも必要と感じた。
18 区	<ul style="list-style-type: none"> ・区の長年の課題であった自主防災組織の設立について、パイプ役となり担当課に必要な事務手続き等の確認や相談をし、自主防災組織設立のきっかけづくりに協力することができた。 ・地域担当職員間で随時活動報告等の情報を共有していることで、地域で抱える課題は様々であると感じている。
19 区	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織の設立にあたり、担当課に事務手続きの方法や必要な書類等の確認をするなど、設立のサポートを行った。 ・自治会運営のなかで、新たな担い手不足が深刻化しており、当番制のような形で役員を引き継いでいる状況である。
20 区	<ul style="list-style-type: none"> ・新里地区では、基本的な窓口が新里支所であることにより、困った時の相談先や対処法が明確なため、役員の自主性や自立性が高いと感じている。 ・エリアが広い区であり、地域によって実施している行事や会費等の徴収方法などの状況がかなり異なっており、活動するうえで地域ごとの特性を理解して対応することの重要性を実感した。
21 区	<ul style="list-style-type: none"> ・活動するなかで、住民が町会で行っている活動内容を知らない人が多いと感じ、役員のなり手不足が課題となっているが、住民が活動内容を知らないことが根本的な原因であると実感した。 ・役員のなり手不足が課題となるなか選出する委員の数が多く、また、1つの委員に対しての人数も多いと感じた。
22 区	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の中で出た意見等を担当課へ情報提供するなど、市と地域のパイプ役を担っている。 ・役員の高齢化が進み、なり手不足が深刻な状況である。 ・高齢化が進んでいることで、現状では市から依頼された調査等が出来ているが、数年後には出来ない状況になる可能性もあるため、市側の依頼業務の見直しも必要と感じた。

4 総 評

◆桐生市区長連絡協議会 朝倉会長

報告を聞き、各区において職員一人ひとりが頑張っている様子がみえ、大変感心しました。

人間関係において、コミュニケーションが大切と考えており、地元の会議では、市に対する質問等が出た際は地域担当職員を通し担当課へ確認し、次回の会議で報告をしていただいています。

私自身今まで消防団なども経験してきましたが、大変そうに見えても実際にやってみると楽しいこともたくさんあります。

各地区には、それぞれの環境や歴史があり、そのようななかで皆さんが中和剤となり、桐生市の活性化に繋げていただけたら幸いです。

区長会としましても、皆さんの活動をサポートしていき、共に歩んでいきたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いします。



◆荒木市長

地域担当職員として活動するなかで、各地区において業務負担やなり手不足等大きな課題を抱えているにもかかわらず、それぞれ地域の方々が対処すべく一生懸命に取り組んでいることを学んだ職員が多いと思います。「現場に神宿る」という言葉のように、課題解決や将来の可能性は現場の声にあると考えており、皆さんが地域に出向くことで、課題や考え方、そして住民の方々との交流や親睦を深めるなかで、地域と行政の距離を縮めていただけると幸いです。

本制度における将来の目標は、ファシリテーターの育成であり、市職員として地域の会議等のなかで、若い世代や女性、子育て世代など様々な人が意見を伝えられるよう中立的な立場として携われる形になれば良いと考えています。地域担当職員として、どのような形で地域に関わるができるのか、活動し地域の方々とコミュニケーションをとっていくなかで探ってみたいと思います。

また、本報告会は、各地区の状況や違いを認識・共有し、今後の活動に活かしてもらうことを目的としており、地域担当職員 23 名の横の連携が大切だと考えています。職員の横の連携は、これからの桐生市の発展にも繋がっていくと考えているため、今後も大切にしていきたいと思います。ぜひ、活動のなかで悩みや困った時には、職員間で相談したり、みんなで話し合ってみたりして解決に向け努力してもらうことも非常に大切だと思うので、職員の和を大切にこれからも取り組んでいただければと思います。

私自身も地域と共に、より良い桐生市を目指して取り組んでいきたいと思っておりますので、これからもご協力をお願いします。また、各地区の役員の方々につきましても、制度を理解し職員のサポートをしていただきありがたく感じています。職員を育てるといった意味でも、今後ともご協力いただけると幸いです。



5 閉 会